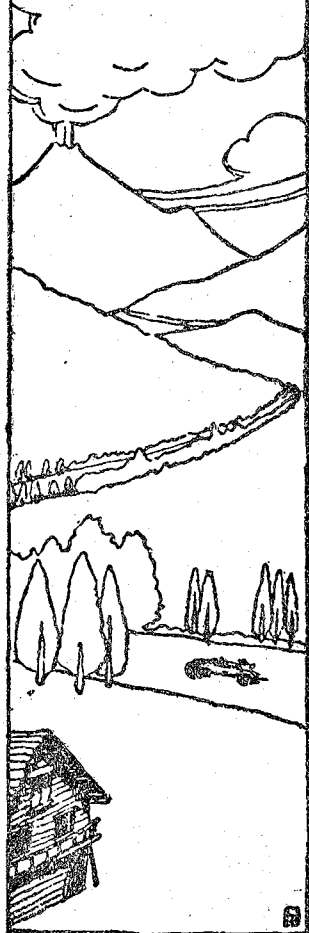


論 說



未來永劫國民の爲めに

大都市街路の幅を思ひ切つて廣くせよ

陸軍中將 男爵 山 根 武 亮



昔の道路は國防の爲めに險惡

道路といふ事が近頃大に研究論議せられて來たのであるが日本にも昔から道路が無いといふ譯ではない、日本に道路が無いと言はれざる而已ならず、地上の動物が地上を歩けば即ち道路が出来ることは言はずとも分つたことである、だから建國の昔から無論道路があつたが、其の道路に對する人の概念が其の時代々に依つて違つて居つた。これは著しい例を擧げて言へば、日本の昔の道路は即ち日本の國防と一致して居つたといふのが一番早い、即ち日本唯一の大道路たる東海道のように

未來永劫國民の爲めに

は、徳川氏が三百年の久しき間、富士川、大井川、天龍川にさへ橋を架けず川の中を歩かせた、これは道路を險惡にして置いて、交通を難からしむる即ち人を困らせるといふことが其の當時の國家を經略する上に就ての大主眼であつたからである。それは徳川氏ばかりではなく、各國々の藩主が其の國家を經略して行く上に就いて、必ず其の道路を險惡にして置いて「我國は要害よし」として喜んで居つたもので、商工業などのために道路を便にするといふやうな考は無かつたのである、如斯日本の昔の道路といふものは國防の目的に副ふ様に拵へてあつた。

今日は道路の大革命の時期

明治維新以來封建制が廢められ、所謂王政復古で郡縣制になり、日本國中統一の政治にせられたから、全國一家になつて道路の改良が始つた、随つて交通を成るだけ便にし、商工業の便を開くやうになつた。一面また國防の上から言つても、道路交通を至便にして、さうして兵の活動、運輸の便を圖るのが即ち今日の國防に副ふ所以であるといふことになつた。それ故に國防と言はず貿易と言はず、商工業萬般の事に就て人生生活の第一便否を感じるものは何であるかといふと、道路であるといふことになつた、だから此の道路改良は何を措いても第一着に完成しなければ、經濟も生活も進歩しない訣である、然るに明治維新より諸般の施設が多かつた爲め、道路の事が一番後れて居つたが、其の間に於いて爲政者は差當り々々の法令規則を設けて道路の事に手を着けた、明治七八年の頃であつたか太政官の遂に、國道の幅を四間にするナンといふことがあつた様に思ふ、爾來年を累ぬるに従ひ、其の他細かい規則は随分澤山あるやうであるが、首尾一貫したる法令の出來たのは、大正八年の四月原總理大臣 床次内務大臣 小橋次官 堀田土木局長時代に道路法が制定されたのを始めとして、それから種々の法令が出來て、今日稍々整頓したやうである併ながら一般民心の道路に對する概念が、前申したやうな歴史の

中に生れて住まつて来た人民であるから、道路といふものが非常に大切なものである。之れを良くしなければならぬ、之れが悪ければ吾人の生活に損であるといふことの概念が脳裡に排除して居たから、政府の法令が揃はなかつたのみならず、一般民心が道路の改良をするのが一番先決問題で何よりも始だといふ考が始終遅れて居たのである。夫故識者は之れを憂ひて折々呼號するけれども、一般の人々は蛙の面に水で、一向に注意しなかつたのである。近來は此の問題が段々進んで来て、餘程研究調査せられるやうになつた、即ち道路改良なる言葉も出來、道路改良會も設置された次第である。

自動車が行きかう爲めの幅員

儲て此の道路を根本的に改革する事が今日の一大急務である、其の改良すべき點は多々あるが、手近く例を探つて見ると吾々が門を出て隣り近所に行くとしても、一般道路の路面が悪い爲めに、沼や田圃を涉るやうな氣がする、即ち鋪裝が差當り必要である。然れども其の改良は何から先きに始めなければならぬかといふ事になると、第一に路幅、即ち道路の幅員問題が改革の一大要件である。其の幅員は何を標準にするか、昔徳川氏時代には徒歩若くは馬足に依つて居つて、車輛は極めて少なかつたが、明治時代となつて汎く車輛が通じ、殊に人力車馬車といふものが流行り出し、此の人力車馬車を通さなければならぬといふことで、田舎の道路の勾配を直し、人力車馬車が行違ひ得るやうに道幅を擴げた。で先づ人力車馬車の行違ふ幅員が道路の標準になつて改造された所が多い。而して晩近は何を以つて道路改良の標準にするか、言ふ迄もなく自動車が標準になつて來た。これが今日着目すべき要點である。今後また自動車以上の如何なる物が出來て來るか分らない又自動車の幅員も幾らにすれば宜しいか、道路の幅員を研究するには、其の道路の上に行き交う車輛その他機械の大小を考へなければならぬ、これは都鄙一般に考慮しなければならぬ問題である。

思ひ切つた大英斷が必要

就中街路即ち市中の道路に於ては、此の研究が最も必要である、隨つて街路の構設には此の事を主として考慮しなければならぬ。日本の道路は前申したやうな舊い考の折に出來た道路であるから、孰れも幅員が狭いので、到る處の市街で其の新しい文明の機械を使用するには非常に困つて、今俄かに此の文明の機械を自由に使ふには、どうしても道路の一大革命をしなければならぬ時が來たのである。夫で先づ差向き研究すべき事柄は、道路の主線、句配、曲線、幅員などであるが、就中幅員といふものは容易に變更することの出來難いものである、殊に街路に於ては最も困難な事柄であるから、此の幅員は道路を制定する時に最も考慮して極めて置かんと後に至つて困る事が出來る。都市計畫の問題は近頃頗る進捗して來たが此の都市の計畫、即ち都市の形を改造するといふ事は餘程至難な事業であり、取りわけ道路の幅員を擴げるといふ事が一番難かしい。近頃各都市に於て、此の改良に就ては、研究も積み、議論も進んだやうであるが、其の實行はナカ／＼難かしい事である、勿論少なからぬ金も要ることであらうが、思ひ切り英斷が最も必要であると思ふ。

銀プラの十五間幅はモウ狭い

さて此度の震災に就いて、全都の不幸は申す迄もないことであるが、此の道路を改良するには好き機會であると思ふ、幸にして帝都復興の議が決まり種々の機關が出來て、此の研究に進まれることは最も喜ぶべきことである、たゞ願くば思ひ切つて十分に行つて欲しいものである、其の成案は未だ自分も詳細に知ることが出來ないから、批評を試るの時期でないが、たゞ願ふのは其の計畫の思ひ切つて偉大英斷ならんことを望むのである。此の東京の道路の改良は前申す通り種々あつて、

鋪裝の事、地下埋設物の事、その他高速度軌道の類もあり、又高架もあれば路下式もある、これ等は何れも道路の幅員が干要である、だから將來また此の上に道路に對する色々な要求が来るものと思はなければならぬ、即ち現在の架空の電線も今に皆な地中に入れなければならぬ。尙ほ歐米には三四十年も以前から熾んに用ひられてあり日本でも極く短い距離には用ひられて居るやうであるが、あの空氣傳送器(管の郵便)これなども地下を使ふものであり、路下式に改める事、まだく是から何が出て来るかわからない。明治初年には東京府知事に由利公正といふ豪傑があつて、銀座通りを拵へるのに、現在のよりまだ廣くしやうとしたが、當時の老人などに妨げられて、意の如く擴げることが出来ないで、其の幅は今吾々の銀ヅヲをする所の十五間幅の道路であるが、今日は此の十五間幅は稍々狭きを感じるではないか。併ながら其の設計の當時には未だ馬車鐵道も電車軌道も豫想しなかつた時である。其の後に至つて馬車鐵道が出来、電車軌道になり、それから自動車か飛んで來てイヤどうも銀座通りの忙がしいこと狭ま苦しいこと夥しい、併し今日吾々は此の十五間幅の銀座に行く度に、創計者たる由利君の功績を思ひ出さぬことはない、今日に於て尙ほ十五間幅は廣いナンといふ人の氣が知れない。

未來の大發展に應ずる幅員

今度の復興院の計畫で、二十四間幅の道路が木挽町邊を通るといふ事である、これは最も良いことであらうと思ふ、其の他にも段々廣き道路が出来るやうである、評議員會などでは尙ほ廣くするといふ積極的な議論も多いやうである、然るに審議會といふ老人連の所に之れを狭げめるといふ説があるさうである。老人は先きが短いから「吾々の生きてる間には必要が無い」といふ考へかも知らぬが、「俺共の時代に必要でないから狭くて宜しい」といふことは、後生を思はぬ善くない話である。自分も老人ではあるが、過去の豫知せざりし歴史の變化に驚かされて居るから、未來の變化を豫測して、未來の豫期

すべからざる變化に應ずるやうにしたいと思ふ。

道路を後日に擴げるは至難

此の道路の幅員といふ事を決めるには、今後の變化發展に對して最も必要である。殊に今この東京市の問題に就いて必要なる事は、これから耐震家屋、耐火家屋と稱して堅牢なる崩れぬ焼けぬ家が段々出來るといふことになる、さうすると此の道路が狭かつたら取擴げやうといふことは、最も至難な事になる。又地震があれば宜いがナ、火事があれば宜いがナ、といふことになる。天道様はサウ度々災難を下すものでない、又サウして貰うては堪つたものでない、どうぞ是れからは崩れぬやう、焼けぬやうに祈るのである、であるから第一道幅も家屋を取毀さずに濟むやうにしなければならぬ。

歐米都市の街路面積はどうか

抑々此の都市計畫の街路設計に就ては、根本的に何を概念するか、審議會の先生方は勿論知つても居るだらうし、歐羅巴にも行つて觀ても居るだらうが、歐米の都市の面積と街路の面積との比較が、華盛頓に於ては五〇%、即ち市街の半分が街路面積である。其の他米國の大都市は二割三割の面積を街路が占めて居り、獨佛に於ては都市の四分の一が街路である。我が東京市はどうであるか、これは日本の中で一番街路が廣いのであるけれども、東京全市面積の一割が街路の面積である、其の他大阪、京都等みな其れ以下である、だから今の東京市の市街をすべて倍にしても、漸く二割になるといふ譯である。審議會の老人方も時偶には自動車を降りて、多くの通行者が自動車などに氣兼ね苦勞をしながら走る様子を御覽になつて欲しいものである。自動車の中にのみ居つて道が廣いだの狭いだのといふ資格はない。

舗装は金次第で後から出来る

勿論經濟といふ事で道が廣く出来ぬといふが、幅員だけは後とで取返しのかね事であるから、何は措いても幅員だけは思ひ切つて先に決めて置きたい、重ねて言ふ、此の事は十分に決めて置きたいものである、地下埋設物、上水、下水などと考へて來ると、是非とも廣くして置く必要がある。舗装は金の出來次第、漸を以つて十分にすが宜しい、殊に舗装は時々刻々に改良して行かなくてはならないものだから、其の時々金の有り次第に改造して行つて宜からうが、幅員だけは今度決めれば、次の改造は最大至難なものである。各人共に能く此事をお考になつて、思ひ切つて氣張つて貰ひたいと思ふ。

街路幅員の土地を惜むな

又家屋建築法の方から考へても、道幅の廣い所でなければ、高い建築物は許されないものである。これは建築法に自から制裁がある筈である。これも追々は變りもするであらう、今回の震災に對しては高さの制限といふ事もあらうが、都市生活の改良の爲めには住宅を重疊することが必要である、それには自かち道路が廣くなければならぬ。道路が廣くても建築が高層に重なつて來れば、其の廣き路面の維持經濟も自から立つ譯である、未來の高層の建築物の構造から考へて見ても、街路は廣く定めて置いて貰ひたい。火除火消の爲めにも尤も必要である、これは未來永劫都市の幸福であると思ふ。これが次の大地震で東京市が東京灣に陥没して終ふなれば問題は消えてしまふが、さういふ延喜の悪いことはやめにして、東京市は今後未來永劫に大發展をするものとして、上下共々心配して目出度復興して貰ひたいものである、それには先づ其の振出しとして完全な街道を造つて貰ひたい。假令日本の國土狹しと雖も、此の道路の幅員に使用する土地位は幾らでもある。心配せず此際しつかりやつて貰ひ度いのである。